

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森」を里やまとして守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



里の恵みに感謝、収穫感謝祭

新調した海上の森の会の幟と朝早くから協力していただいた参加者の調理風景

去る11月25日、海上の里サテライトにおいて本年度も無事収穫感謝祭が実施された(詳細についてはグループ報告を参照)。

昨年までと大きく違うのは、写真でもひと際目立つ緑地に白字で大きく「海上の森の会」と染め抜かれた幟と、これまでは会員所有のものを毎回借用していた餅つき用品をちょうど収穫祭に間に合うように調達できたこと。これも新調したセイロにお釜、竈、そして環境に配慮して(?)新品ではないが、年季の重みを感じさせるしっかりとした石臼が4つも会の所有物に加わり、これらによって数え切れないほどの白餅、紫餅(紅芋混)、他変り餅などが次々と参加者たちの胃袋を満たしていった。他にそばや芋煮、焼き芋なども振舞われた。

予算が限られていることもあり、森の間伐材をうまく利用してこれらの資機材を保管する場所を製作確保していくことが今後の課題となってくる。

海上の森だより第10号目次

海上の森未来予想図3	P.2,3
海上体験記	P.4,5
ぎゃ～ろめ通信	P.6,7
会・グループ報告	P.8～10
運営委員会と事務局より	P.11
9月～12月の行事予定	P.12

海上の森の会 会長 木村 光伸
事務所 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1
「あいち海上の森センター」内
「海上の森の会」事務局
TEL&FAX 0561-21-9298 (留守電対応)
e-mail: kaisho_satoyama@yahoo.co.jp
ホームページ <http://kaishonomori.com/>

ぼくはじゅうねん君。10年後の海上の森を一緒に考えてみませんか？



海上の森ため池再生プロジェクトをはじめよう！

海上では、戦後の挙家離村や近年の県の土地買収等によって、かなりの耕地が放棄されて、海上に4つあったため池も管理されないまま、ため池堰堤の決壊や土砂の流入によって壊滅的な状態になっている。

愛知万博の用地買収が始まる以前の海上の里は、まだ休耕地が目立たない田んぼが広がる里山風景が見られた。何とか水が田んぼに行き届いていたのだ。現在、伏流水は止まり、堰堤も埋まっている。さらに近年は海上川の水量が減少しつつあり、現在使われている耕地を耕作するだけでも、田植時期には降雨の状況に一喜一憂するありさまだ。この恒常的な水不足を解消するためにも、里づくりの活動を活性化（水田と畑の復活）するためにも、ため池と用水路の整備が急務である。

里山は田んぼ、森林、草地、水辺のつながりがあってこそ豊かだといえる。生物多様性という言葉を実感できる場所であってほしい。そのためには、かつてあったという上流のため池を復元、再生させなければならないという案が、浮上して数年が経った。



ため池再生のために

ため池を再生するための参考に、豊田市でため池補修の工事をしているという現場を訪れることになった。水が漏れるようになったため池を約9000万円という多額の予算で補修する工事だった。現在でも、ため池を補修して使う工事が行われていることに驚き、安堵もした。視察した結果。

これほど大規模なものは難しいし、必要もないだろう。

堰堤の土木技術については専門知識が必要であり、設計はプロの手を借りなければならない。

ため池堰堤に使用する土砂は、堰堤の部分によってその性質を変える必要がある。

例えば水を貯める

側にはハガネ土を使い、排水側は浸透性のある土を使う。
などがわかった。



ため池保全工事見学会

10月30日



海上の里でため池探し

ため池を再生させるとなると、ため池整備費の問題ばかりでなく、所有地の問題、集水域の山地保全の問題、ため池と用水路の管理体制の問題など解決しなければならない問題が山積している。ため池の再生は容易なことではないが、一歩でも前進させるために、まず、ため池および用水路の再生を目的とする勉強会を開くことになった。

11月17日午前9時半に休憩所の古民家に集合。かつてあったというため池の場所を確認するために現地視察と話し合いを行った。

いったい、どこにため池をつくるのがいいのだろうか。去年は、かつて機能していたため池の場所を見に行った。現在も耕作している地元の方の案内で見た過去のため池の場所は、草で覆われてその面影を探すことさえままならない状態だった。

今回は、里に近く水路も短くてすむ奥の院の下に当る地点を確認した。堰堤部分が残っているが、周囲は樹林に覆われており、下流はヒノキとモウソウチクが混在していた。

今回わかったこと、問題点は、

- ・ 土地所有を確認する必要がある。民有地なのか区有地なのか。
- ・ 再生費用のための予算（助成）獲得の道を探す。
- ・ ため池を再生し保全するためには、周囲の森林の管理、降水量など水文学的な把握も必要である。
- ・ ため池再生がゴールではない。いかに里山として持続可能な循環を実現していけるのかの道を探さなければ行けない。ため池再生を起点にすることが里山再生の夢につながる。



ため池再生プロジェクトに参加しませんか！

ため池再生プロジェクトこそ、里山再生の夢のスタートなのだと、今回みんなで話し合っただけで確認したことが最大の収穫だった。着実に具体的に楽しく、やりたい！

次回の調査日は、来年2008年1月14日（祝）里の休憩所に午前9時半集合です。



（樹林の中の昔のため池）



（曾我部行子）

海上の森との約束 ～万博・瀬戸会場工事の記憶～

2005年の愛知万博・瀬戸会場としての喧噪も昔の話となり、今は「あいち海上の森センター」が構えている森の片隅も、随分と落ち着きを取りもどしたように見える。私が愛知県の会場造成担当者、いわば開発者としてこの森に関わったのは、わずか2年ばかり（2003-2005年）の期間ではあるが、常に「万博にとって海上の森とは何なのか」を意識せざるをえない立場にあった。答えを見出せないまま私の中で森は特別な存在となり、今では「海上の森にとって万博とは何だったのか」を問いかける。

恐らく万博そのものが重要なわけではない。主に外部からその存在を気付かされ、様々な紆余曲折を経て直接改変することを避けた海上の森であるが、ならばこれから人と森との関係にどう向き合い、何を守ろうとしていくのが、私たち自身の命題になったのだと思う。そしてこのことは海上の森だけに限ったことではないような気がする。

瀬戸会場整備と環境対策

当時行われた愛知万博・瀬戸会場整備工事について少し紹介しておきたい。広大な長久手会場と比べて随分と規模縮小されてはいたが、それでも博覧会協会を始め国、県、瀬戸市など実に多くの事業主体と施工業者が関わっており、愛知県は最も海上の森に近い敷地造成（公共建築課）と周辺の道路・砂防工事等（東部丘陵工事事務所）を担当した。

私が赴任した2003年の春、初めて海上の森を訪れた時の状況は、既に吉田川で砂防ダムが着手されていたものの、会場計画地はまだまだ荒地と言った風情であり、森に咲いたばかりであろうシデコブシがとても印象的だった。実は、この時既に表土が剥ぎ取られた敷地には大きなコンクリート製の地下調節池が埋められていて、降雨時に敷地内の水が一気に流出しないよう、またこの中に竹粗朶(そだ)や砂利等を敷き詰めることで裸地からの濁水を濾過させる機能を持たせていた。剥ぎ取った表土や比較的小さな樹木についてはこれを保存し、最終的には会場に戻し復元している。吉田川沿いや海上の森センター中庭から北側斜面、駐車場から遊歩ゾーンに至る階段周辺の斜面部分（鋼製籠）などにその痕跡が見えていただけだと思う。目的は植生の早期復元であり、この辺りが早く森になり緑に覆われてほしいと誰よりも願っている。地下調節池は今もセンター下から駐車場までの地中に横たわっており、時々工事中と同様中に入りたい誘惑にかられる。ちなみに瀬戸・愛知県館（パピリオン）は当初から「あいち海上の森センター」に生まれ変わることを想定して計画された建物である。



矢作川流域から学んで

瀬戸会場での水質保全対策は重要なテーマであり、いわゆる「矢作川方式」を参考としていた。昭和40年代頃に乱開発による濁水問題が生じていた矢作川流域では、農業団体などを母体とする矢作川沿岸水質保全協議会（矢水協）が立ち上がり、開発に対する監視・闘争の長い歴史を経て、このNGO的な組織が流域管理の一端を担うという画期的な合意形成を得ていた。流域内での開発に対する水質保全計画や施工について矢水協との協議が必要となり、調節池内での竹粗朶等による処理方式はこの中で良く指導され

ていた濁水対策である。しかしながらこの手法が矢作川方式の本質ではなく、あくまで流域の視点での水質管理を可能な限り行うため、開発者自らが事前計画、監視、意識の向上などに取り組むこととしたシステムにある。

海上の森に近い瀬戸会場工事では24時間自動水質観測装置を吉田川の上流・下流2箇所に設置し、工事濁水を監視していた。時として濁水を流出させたこともあるが、その場合の原因究明と対応については最も重要視した。多数の発注者や施工業者が輻輳する万博工事特有の現場では、原因が曖昧なことから通常の対策が疎かになりがちとなる。担当者の環境意識も随分と温度差が感じられた。そのため関係者で瀬戸会場周辺工事連絡協議会を組織し、情報を共有しながら個々の意識を高めると共に、濁水対策の指導や車両数調整なども図っていた。

矢作川方式の経験から、環境を守るために最も必要なことは、高度な環境技術などではなく、当たり前なことを嫌がらず丹念に実施する現場での意識だと感じている。短期間に多くの作業員が従事する瀬戸会場では、自分たちがどんな場所で働いているのか、何に配慮しなければならないのか、十分認識してもらうことが重要で、そのための環境研修会を着手前に必ず行うこととし、あわせて周辺の貴重な動植物を示したハンドブックを携帯してもらっていた。彼等は一時期確実に海上の森の住民だったのである。

藤前干潟から海上の森へ

元々河川行政に携わることの多い「川屋」の私は、海上の森赴任直前まで、新川・庄内川の河口に広がる藤前干潟の保全対策と格闘していた。東海豪雨対応として行う河川浚渫の影響を見据えてのことである。5年間のモニタリング計画の内、鳥類調査を野鳥の会に委託し透明性と専門性を確保すると共に、保全対策として貧酸素水塊発生源となる干潟内の深い窪地を埋め立てるべきかどうかの議論を続けていた。結論のゴーサインまでは3年程を経る。「ゴミ処分場計画撤回」により守られたとされる藤前干潟も本来不安定な場所であり、本当に守られたのかどうかは土砂供給の問題や名古屋港全体に広がる貧酸素水塊など含め見守っていく必要がある。

この藤前干潟から新川、庄内川、さらに矢田川を40km程遡上したところに海上の森がある。経緯や課題について、ついつい両者を重ね合わせてしまうのであるが、川屋の私にとっては同じ(庄内川)流域の問題なのである。

万博だからではなく

海上の森の未来予想図はとても立てづらい。海上の森であれ藤前であれ、将来にわたって環境を守っていくためには、ある程度流域単位でのローカルルールが必要だろうか。矢作川方式は全国的にも類を見ない大いなるローカルルールではあるが、水質に特化したものであり、恐らく時代は次のステップを求めている。その意味では海上の森には「条例」も制定されているが、これは出発点であり、矢作川のように長い監視と調停の時間、知見の積み重ね、歴史を経た上でしか構築されないものもある。私たちは今こそ、少々覚悟して森とつきあわなければならない。

工事担当者として感じる万博の最も大きな成果は、実に多くの行政関係、事業主体が軋轢を生じつつも一つの目的を共有し、調整を図りながら達成したという経験そのものである。海上の森や藤前干潟、あるいは今また私が携わっている矢作川を守り、未来へ継承しようとした時こそ、その経験が生かされるべきであろう。万博だからではなく、私たち自身のために健全な森や海や川が必要だという共通の目的があれば良い。

近 藤 朗 (愛知県豊田加茂建設事務所)

き
こ

か
み

ぼうけんのもりワパクひろば

1ぼうけんのもり.ワパクひろば(仮称)は
あいち海上の森センター主催の
「森の教室親子編、入門編」他で
参加者が森のしくみや手入れの仕方を
学びながら 只今 展開中。 =永田=

ちっぺらいあるよ

もっともっと
あかるくたのしい
もりになあ～れ

木の枝とほっぱで
ヒミツキチ

いっまでむっ!?
フジツルしーい

ターザン

ケ～ロケ～

1がっ
きのぼり

3がっ
むしめがわで
かんさつ

の
里あそびにおいて
みんなとこぞ たのしく
あそぶるよ!!

4がっ
のでのだて

ここにもいる!!
カミノガキクイムシ

山さ!!穴と木とが
ここに!!さうた!

どんぐりの木が
だ!!すき

養 ほんとの大きさは
5mmぐらい

あっちこちに手がりの
ベンチやテッキがあるよ

あしべりしたり こうさく
したり。いっいっつつかえるね

ドンクリ
ゴロゴロ

オチバスベリ

おまっちゃん
のみたい

あかがエル
どこかに
いるらしい

じ～こ～だ?
アカ

12がっ
ここにあるもので
えびづくり

あっちこちに手がりの
ベンチやテッキがあるよ

向 このページにはなんびき?かぞえよう!

冬眠してはいて"外であそび"

2月1日(火)見よう
12月9日(水)見よう
1月3日(木)見よう
3月1日(木)見よう
4月2日(水)見よう



年末行事と
正月行事と
ひな節句行事
もちつきするよ

5月分の行事
忘れないうちに
カレンダーに
記入ね

12/9 ひつぎむしは
いくつある?
海上入口から里山サテライトまでの道端
には何種類のひつぎむしがあるかな?
かんたんな方法で調べてみよう
来年の干支づくり
小枝、葉っぱ、木の葉など
どこにあるものでつくってみよう

3/1 むしめがねで
のぞいてみよう!
落ち葉や土にはるのほ どうして?の答えを
むしめがねをのぞいて探してみよう。
木の芽や じんじりの芽(根)で
春探し。 カシノガキクイムシの
いそうなども探して見よう。

4/2 ほんとうの野点を
してみよう!
春休み 野で野点
お抹茶のお友。かんたんなお茶菓子つくって
お花見しながら あたりすぎを。

1/3 冬だけ"春の七草&
子どものなる木を探せ!
新年が健康に過ごせる事を願って食べる
七草がゆ。病気にならないうちにと願いを
込め、里で七草探しと【?】草がゆ 食べよう。
セリ、ナズナ、ギギウ、ハコベラ、ホトヲギ、スズナ、スズロ
(セリ) (ナズナ) (ギギウ) (ハコベラ) (ホトヲギ) (スズナ) (スズロ)

詳細は裏表紙の【野あそびグループ】
でご確認下さい。
今年度(3月末)まではイベント毎に子ども一
人50円の傷害保険に加入していただきます。

●● 森の約束 ●●

真っ青な秋の空が広がる日、
「海上の森の会」の「野あそびグループ」で森に出掛けた。
時間をかけて少しずつ切り開かれた雑木林で、子どもたちはターザンごっこに明け暮れる。
どんぐりを使った工作に興じたり、秋の森での「野あそび」をたっぷり満喫したりした後で、見せてもらったのは万華鏡。
最近市販されている万華鏡には、凝った高級品もたくさんある。
だが、たとえ仕掛けは単純でも、幼いころ、初めて出会ったときの驚きに勝るものはない。
のぞくときにわくわくするのは、大人になっても変わらない。
森で手渡された万華鏡をのぞくと、あらっ、何か違う。地味な色合

秋の万華鏡

いなのに、不思議と魅力的なのだ。
種を明かせばそれは種。草の実、木の実の種が入っていたのだ。
これも、初めて出会う驚きだった。
100円ショップで買えるという万華鏡キットを一つ分けてもらった。
掃る道々、種を探す。イネ科の小さな種。ムラサキシキブの紫の実。羽のついたツクバネウツギ。秋は、確かに実りの季節だ。次の世代を残すためさまざまな植物が工夫した多様な色と形がたちまち集まる。
種を入れてのぞいてみる。とりわけきれいなのは、光を透かした薄桃色のイタドリの実だった。わたしだけの小さな秋。
(海上の森の会・曾我部行子)

去る11月4日
「木の葉と木の遊び」
の最後に、遊びの1つ
として紹介にとどまった
秋の実の万華鏡
次の木は
みんなごやるよ
お楽しみ!!
2007.11.24
中日新聞掲載ドラマ

12月9日(水)見よう
1月3日(木)見よう
3月1日(木)見よう
4月2日(水)見よう

会・グループ報告

学びと交流のつどい

9月23日(日)には、里山サテライトで「月見の宴と津軽三味線鑑賞会」がありました。当日は旧暦の8月12日でしたから満月にはまだ早いのですが、子供たちも参加しますので連休初日にしました。参加者で練った米の粉で月見ダンゴを作り、その後、ダンゴ・ススキ・ハギを供え、津軽三味線を鑑賞しながら月の出を待ちました。子どもたちの団子盗みもありました。あいにくの曇り空でしたが、帰り支度をしていたとき、雲が切れてお月さんがちょっとだけ顔を見せてくれました。

10月21日(日)には「初秋の海上の森を歩きながら」がありました(自然環境調査グループ報告参照)。

同月27日(土)には、あいち海上の森センター・会議室で、山川一年さんに「海上の歴史(3)海上の近世」のお話をいただきました。名古屋城の築城や改築と関わったかも知れない海上での花崗岩の切り出し、陶都の磁器原材料となるイシコ(石粉)生産のためのサバツチ(珪砂・長石などを含む風化花崗岩)採掘など、近世の海上の興味ある暮らしぶりが浮かび上がってきました。

10月30日の愛知県豊田加茂農林水産事務所が行っております、ため池保全工事現場見学会(豊田市藤岡山ノ神地区)を受けて、11月17日には里山サテライトで、第1回「ため池勉強会」がありました。この日は会の進め方、ため池補修の候補地、築堤の方法などが話し合われました。今後定例的な会へ発展させ、会員の力で恒常的な水不足に悩む現在の灌漑用水の充足と休耕田の復活のために、ぜひともため池再生を実現させたいと思っております。

11月25日(日)には「あいち海上の森センター」との共催イベントとして収穫感謝祭が行われました。詳細は里づくりグループの報告をご参照下さい。(伊藤)



案内巡視グループ

天気の良い休日ともなると駐車場に車が止められないほどの状態となり、海上の森が名所として定着しつつあると思われます。この素晴らしい環境を維持しなければなりませんし、また訪れた人が山里の自然に触れ体感していただきたいものです。巡視活動を続ける一方で、しかし心ならずもゴミを捨てる人は後を絶たず古タイヤ、冷蔵庫、茶箆筥までもが捨てられているのが現状です。

悪いことばかりではありません。先日は八草駅への道程を尋ねられた熟年夫婦に逆に聞いてみたところ、八草から海上の森センター、四つ沢、広久手を回ってウルメキまで歩いてこられたと、嬉しそうに話していただき、単なる道案内にはない喜びを分けていただきました。

案内・巡視共に、12月9,23日 1月13,27日 2月10,24日 3月9,23日いずれも午前10時から午後3時までの間にかたりべの家を拠点に海上の森入口駐車場より物見山に至る幹線道路で実施予定です。

参加ご希望の方は、活動日の午前10時にかたりべの家に集合願います。(鈴木 五男)

情報グループ

ホームページ更新しました。ご覧ください。

(冬木)

環境保全グループ

10月6日(土)に海上川沿いのごみ拾いと海上の里で竹伐りをし、昼に終わりました。15人(うち会員12人)が参加しました。ゴミは比較的になく、不燃ごみ6袋、可燃ごみ6袋、粗大ごみ軽トラック1台分でした。ゴミ拾いは早く終わって、海上の里奥の県有地ではびこる竹を伐り、その地域はいい景観になりました。最近は参加人数は少なくなり、粗大ごみも適時行政が拾集しているので、海上の森の会の環境保全活動も転換期にあるといえます。(馬宮)



森づくりグループ

以下のように今年度の活動を予定しております。ご都合をつけて、いい汗かきませんか。

< 1 > 森の間伐計画 : 基本的に水曜日、土曜日とし、冬季は日曜日を組み込みました。

12月・・・9日(日) 15日(土) 19日(水)

1月・・・12日(土) 20日(日) 23日(水)

2月・・・9日(土) 13日(水) 17日(日)

3月・・・9日(日) 12日(水) 22日(土)

他 プラス で開催!

* 雨天の場合は学習会も企画しています。

万が一に備えて保険に加入しています。

***いづれも、海上の森入口駐車場に9時集合です。**

*当日は、ナタ、ノコギリ、弁当・飲み物は持参してください。(ヘルメットはお貸しします)

< 2 > 県企画事業への協力

(福田)

里づくりグループ

苦あれば楽ありと申します。楽しい収穫の秋がやって来ました。9月22日のサツマイモの収穫、10月13日の稲刈り、11月3日には里芋の収穫が完了しました。これらの収穫物は一部を収穫感謝祭の食材として保管したほかは、参加された皆さんに配られ、それぞれのご家庭に持ち帰られました。

ここで今年の実りのほどを報告しますと、モチ米は4俵(約240kg)の収穫と昨年より1俵少ない結果となりました。イノシシ防御柵のおかげで、今年は田んぼのイノシシ被害はほとんどなかったにもかかわらず、収穫量が減ったことは意外でした。異常な暑さのせいなのか、肥料不足か、ヒエなどの雑草取りが上手くいかなかったのか・・・。



やきいもまだ焼けないかな?

昨年はイノシシ被害で全滅したサツマイモは、今年は1/3が被害から免れ、里芋やソバは昨年よりもたくさん収穫することができました。イノシシ被害は全体的には金属メッシュ柵が整備されたお陰で少なくなりましたが、一方では地元の耕作者の畑が大きな被害を受けてしまいました。

そして11月25日待ちに待った収穫感謝祭が開催されました。当日は雲ひとつなく、額に汗するほどの晴天のもと、200人以上が参加しました。里の教室に参加した親子を初め、会員や地元の方々が早朝から準備を開始し、昼前には餅、ソバ、芋煮、焼き芋等々が出来上がりました。午後には「人と自然の共生国際フォーラム」に参加された方々が

合流され、一段と盛り上がった収穫祭で、今年の恵みに感謝した一日でした。

(鈴木 俊憲)

自然環境調査グループ

毎週木曜日の定例生物季節調査を続行中。これに加えて、10月26日には「秋の草花を訪ねて」を一般向けに行った。グループ員以外の参加者がただ一人という状態だったため、コースを変更し、定例調査コースでは行けない花の多い場所を歩いた。アケボノソウの大群落に感激した一同であったが、保険に加入していないこの日に限って、事故が起きた。幸い怪我の程度が軽かったが、ひやりとさせられた。



10月31日、(財)日本自然保護協会の担当者より、環境省モニタリングサイト1000についての説明を受けた。コアサイトになるためには、5つ以上の調査に取り組む必要があること。それぞれ調査には要件がありそれを押さえたルールを実行しなければならないこと。報告書をまとめるための地域コーディネーターが必要なこと、などがわかった。

この結果、11月17日の運営会議で了承され、今後は自然調査グループが中心になって来年度よりの取り組みが始まる。これによって毎週木曜日の生物調査を見直し、新しい調査体制を組む必要となる。(曾我部)

ツアーグループ

第2回目のツアーは9月15日にありました。この日は快晴でした。5班編制で例年にない暑い初秋の森を味わっていただきました。第3回目のツアーは11月10日にありました。この日は晴れたり曇ったりの天候でしたが、5班編制で秋の海上を探勝していただきました。冬来る小鳥もさえずり始めました。

第4回目のツアーは3月15日に実施します。海上の森の会の皆さんもガイド役で多数参加ください。協力のご連絡はツアーグループ山田耕二(090-2686-8402)まで (山田 耕二)

民家保全グループ

生活史調査グループ

9月2日(日)には、民家保全グループ・生活史調査グループの合同例会を行いました。この日は鈴木保親家旧宅裏の排水口を整備しました。

11月23日(金、祝日)も民家保全グループ・生活史調査グループの合同例会を行いました。この日は25日にある収穫感謝祭に先立ってサテライトの草取りなどの掃除と鈴木保親家旧宅屋敷周りの補修作業を行いました。(伊藤)

野あそびグループ

9月23日月明かりで大正池まで夜の散歩の予定でしたが残念ながら月が出ていなかったことと、参加者が予想以上に多く夜の水辺は危険と判断し、急遽里に近い雑木林に変更、懐中電灯で夕方から仕掛けた昆虫トラップを見に行きました。



結果はオサムシたったの1匹だけ。皆を満たしてくれたのは三味線とこっそり(?)食べた団子なのでした。

11月4日は秋の落し物あそび、入口駐車場からサテライトまで実に2時間近くかけてゆっくりと歩いて、首から下げた牛乳パックのポシェットいっぱい集めたドングリや枝などを使って工作したり、雑木林で落ち葉滑りやターザンごっこしたりと秋の里山をのびのびと満喫できた一日でした。(早川)



第 38 回～第 40 回運営会議で話し合われた主なこと

運営会議は傍聴できます。ご希望の方は事前に事務局までご連絡をお願いします。

第 38 回運営会議 2007.9.15

会の方向性について集中討議。ガイドの依頼は事務局を窓口として幹事が諾否を決め対応。センターの委託事業は企画段階から会の参画を確認。会の基本方針、会と会員との意思疎通、運営会議と事務局のあり方等については継続審議。/センター委託事業 19 年度体験学習プログラム「里山のものづくり」第 2 回工作(12/8)・第 3 回炭焼き(1/26)・第 4 回炭焼き(1/27)。20 年度事業として「里山のものづくり」、「海上の森ツアー」を委託。/12 月開催のシンポジウムはシデコブシを中心テーマとして 12/16 に開催。会は共催を検討。/「海上の森体感ユニバーサルプログラム開発・普及」はプログラムの実施面で会が協力。/センターから海上の森森林整備方針の説明。モニタリングサイト 1000 について説明、会が受ける方向で日本自然保護協会による説明会を後日開催。/第 1 回ため池勉強会を 11/17 に開催。/9/2 開催の海上の森の森林保全活用の現地検討会について報告。/朝日新聞社「グリーンマップ」のガイドについて報告。ガイドの受け方について問題提起があった。/せと環境塾について報告。

第 39 回運営会議 2007.10.13

センターは 20 年度も 19 年度人員を維持できるため、20 年度事業は「里山のものづくり」、「海上の森ツアー」を会に委託。/12 月開催のシンポジウムは海上の森と東海地方のシデコブシをテーマとし講演者・報告者について検討。/センターから 11/24～25 開催の「人と自然の共生国際フォーラム」の会場案内・受付等の協力要請。日本自然保護協会によるモニタリング 1000 説明会の 10/31 開催案内。豊田市藤岡のため池整備事業地の 10/30 視察案内。あいち自然環境団体・施設連絡協議会設立準備会の設立趣意書・役員候補者について説明。あいち海上の森センタースタンプラリーについて説明。危険木伐倒事業の説明/あいちモリコロ基金事業について応募を検討。/名古屋市神丘中学校総合学習に講師として参加。/名鯨友会(11/13)・日本セカンドライフ協会(10/31)からガイド依頼。

第 40 回運営会議 2007.11.17

12 月開催のシンポジウムの講演者・報告者、開催日 12/16・会場瀬戸市文化センター文化交流館を決定。/平成 20 年度定期総会開催日 3/23 を決定・会場は未定。/11/17 第 1 回ため池勉強会の報告、次回 1/14 開催。/10/31 モニタリングサイト 1000 説明会の報告、会がコアサイトとして 5 項目の実施を決定。/イノシシ防御用ワイヤーメッシュ柵の効果について確認・20 年度は優先順位を決めて実施。/「学びと交流のつどい」の餅つき・蕎麦打ち道具購入を承認。/森づくりグループの草刈機購入を承認。/センターから「人と自然の共生国際フォーラム」、海上の里の製材機置き場建設への協力要請。あいち自然環境団体・施設連絡協議会設立総会の 12/22 開催、19 年度森林・竹林整備に係わる調査測量の報告。

(似内)

事務局からのお願いとお知らせ

平成 19 年度会員(会費納入者)は 11 月末現在で賛助団体 1 社を含め 221 名、会費合計金額は 278,500 円となりました。これは 18 年度と比べ会員数で 8 名増加、金額では 6,300 円増となります。有難うございました。

会費納入者は今年度内のボランティア保険に加入しております。行事で万一事故のあった時には事務局に申し出て下さい。

(事務局 藤野)

12月～3月の行事予定

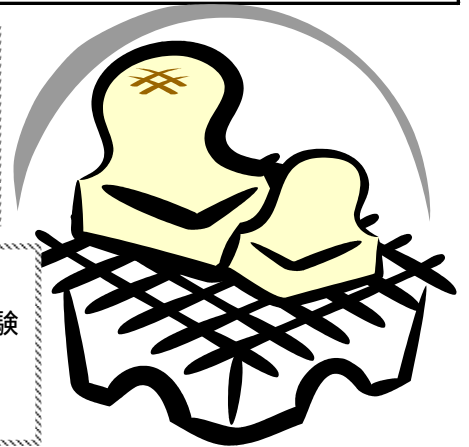
12月	9(日) ひつつきむしはいくつある?来年の干支づくり 【野あそびグループ】 午前9:30 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水 対象:会員とその家族 道端のひつつきむし調べ(会の活動は午前のみです)(ゆっくりしたい方は昼食も)(友達誘って当日入会も可)
	16(日) シンポジウム「海上の森とシデコブシ」 【会; あいち海上の森センターと共催】 午後1:30～4:30 会場:瀬戸市文化センター3階31会議室 対象:会員、一般 海上及び東海地方のシデコブシの特色とその保全について考えます
	23(日) 大掃除と年末行事 【学びと交流の集い】 午前9:00 集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器、箸 対象:会員、家族、一般 参加(食材)費:中学生以上300円 大掃除、餅搗き、門松立て、オコズナなどの年末行事。イノシシ除けワイヤーネット柵の補修作業。
1月	13(日) 正月行事とドンドコ 【学びと交流の集い】 午前10:00 集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器、箸 対象:会員、家族、一般 参加(食材)費:中学生以上300円 二日のトロロ、七草粥、ドンドコなどの正月行事を行います
	13(日) 冬だけど春の七草&子どものなる木を探せ! 【野あそびグループ】 午前10:00 集合:里山サテライト 持物:飲料水、食器、箸 対象:会員とその家族 上記正月行事とドンドコに自動参加になりますので上記参加費が必要になります
	14(祝) 第2回溜池勉強会 【学びと交流の集い】 午前9:30 集合:里山サテライト 持物:飲料水、昼食、長靴 対象:会員、一般 農業に欠かせない溜池の再現を目指して、基礎の基礎から始めています
2月	10(日) 冬の野鳥を求めて 【自然環境調査グループ】 午前9:30 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、昼食 対象:会員、家族、一般 真冬の海上を歩きながら野鳥のさえずりに耳を傾けてみましょう
3月	1(土) むしめがねでのぞいてみよう! 【野あそびグループ】 午前9:30 集合:海上入口駐車場 持物:飲料水、虫眼鏡(あれば) 対象:会員とその家族 落ち葉の下や土の中、春を待つ木の芽などを観察しよう(ゆっくりしたい方は昼食も)(友達誘って当日入会も可)
	23(日) 海上の森の会 平成20年度総会 【会行事】 午前会場:瀬戸蔵4階多目的ホール、午後は海上の森散策予定 対象:会員 現在詳細未定のためHP等で追ってご案内します(当日新規入会可)
4月	2(水) ほんとうの野点をしてみよう! 【野あそびグループ】 午前9:30 集合:海上入口駐車場 対象:会員とその家族
	6(日) 雛節句とオコシモン作り 【学びと交流の集い】 午前9:00 集合:里山サテライト 対象:会員、家族、一般

人工林の手入れ(間伐作業) 【森づくりグループ】

活動日: 12/9,15,19 1/12,20,23 2/9,13,17 3/9,12,22

いずれも9時海上入口駐車場集合、いい汗かきましょう!

服装・持物:作業のできる服装、着替え、鉈、鋸、昼食、飲料水



あいち海上の森センター募集行事の受託事業

【里山のものづくり】12/8(土) 間伐材で工作 1/26(土)・27(日) 竹炭焼体験

【海上の森ツアー】 3/ 15(土)海上入口駐車場集合9:30～14:30 予定

いずれも一般申込みは海上の森センター(0561-86-0606)まで

問い合わせ先一覧

【学びと交流の集い】	伊藤	T&F 0561-84-7044
【野あそびグループ】	早川	T&F 0561-21-9863
【自然環境調査グループ】	山本	T&F 0561-54-9067
【ツアーグループ】	山田	T&F 0561-21-2947
【森づくりグループ】	福田	T&F 0561-83-0908
【里山のものづくり】	森センター	TEL 0561-86-0606
【海上の森ツアー】		FAX 0561-85-1841

編集後記

予定を見やすいよう編集体制を見直した今年度の会報もこれが最後の号となりました。盛り沢山の行事を忘れずにチェックして海上へ足を伸ばして下さい。

来年度もよりパワーアップしてお手元に会報が届けるよう頑張ってみます。

随時入会受付中!

年会費(4月～翌年3月) 1口1,000円1口以上
口座記号番号 00820-6-185628
加入者名 「海上の森の会」